

視察メンバー ・ 委員長 神谷昌宏 ・ 副委員長 加藤峯昭
 ・ 委員 清水行男 山内智彦 黒川智明 松永 寿 上田昌哉
 ・ 中央図書館館長 高西恵美子 ・ 議会事務局 酒田孝平 計9名

視察先および目的

10月24日 神奈川県 大和市立 深見小学校 … 電子黒板を取り入れた先進授業
 10月25日 神奈川県 綾瀬市立 図書館 … 日本初の指定管理した図書館
 10月26日 東京都 江戸川区 子ども未来館 … 子どもの探究心を広げる
 篠崎 子ども図書館 … 幼児・児童書のための図書館(指定管理)

10月24日 大和市 小学校の電子黒板を使った授業について

行政比較(関係)

電子黒板導入と今後の計画について



項目	大和市	刈谷市
人口	228186人	145970人
面積	25.45km ²	50.45km ²
出生率	9.39	1.22
財政力指数	1.08	1.59
経常収支比率	76.3%	87.7%
小学校生徒数	12101人/20校	8752人/15校
中学校生徒数	6029人/10校	4447人/6校

H21年度 ・深見小学校が文科省に「電子黒板」を活用教育に関する調査研究を委託・推進
 ・1月末に地デジTV設置(全小学校)
 H23年度 ・新学習指導要領の全面実施に備え授業改善に資する。
 H24年度 ・全小学校で授業活用開始
 ・全小中学校特別支援教室に地デジTV設置、導入時研修実施・授業活用開始
 H25年度 ・中学校理科室デジTVへ、電子黒板機能の後付を予定

視察内容

●電子黒板を取り入れた先進授業の状況

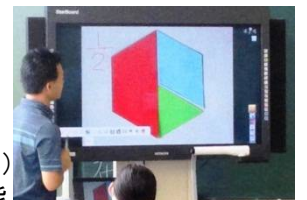
- 1) 国語 ・漢字の書き順を一画ずつ表示(専用ソフト)
 ・漢字の復習で、途中の一画のみ表示。これを別の一画のみ表示し、ゲーム感覚で生徒が回答
 ・物語に登場する「カワセミ」について、予め生徒に想像で絵を描かせた。その絵に対し、「カワセミ」の写真やその形態を見せ、作者の文章から表現したい情景について、説明・理解させた。
- 2) 算数 ・分数の考え方を、図形を用いて画面上で説明。
 ・図形の組み合わせで別の図形を、生徒に解答させる。別の解答を同様にさせた。複数の解答を、画面上で瞬時に表示し、理解をし易くする工夫をしていた。



カワセミを資料として表示



書き順を画面表示



分数を図で説明



図形の組合せで解答

●教育委員会の電子黒板についての補足説明

- 1) 委託研究から3点セット(後付電子黒板枠・実物投影机・国語デジタル教科書)で全普通教室への整備について予算化推進。(14クラス・約千万円)
- 2) 使用の留意点 ・効率的・効果的に活用し、使う事に振り回されない
 ・情報機器を活用した理由を説明出来るようにする
- 3) 使用の効果 ○伝達内容を理解し易く、より興味を持って学習に取り組める
 百マス計算など、タイマー表示でゲーム感覚的な授業実施
 ○黒板へ視線が上がり、対話時間が増え、効果的な情報伝達を可能に。
 ○生徒のノートのまとめ方の良い事例紹介が出来る
 ○発表する能力向上にも利用出来るツール(教師→生徒が使うツールへ)
- 4) 今後の進め方 ・オンライン化することでクラウドを利用した、教育資料の最新管理が可能
 ・機器トラブルについて、コスト含めた検討し、対応策の構築。

所感

教員の技能として、授業単位の導入や興味を持たせる話術等個人差がある。この視点で見ると、電子黒板を併用するに当り、事前に教員同士で使う方法を統一研究する事や、授業の指導方法の統一化を、深見小学校では事前検討・教育を行っている。これにより、教員間の学びの場となりレベルアップが図られていると感じた。実際の授業では、聞く・読む・見る事で、具体的に理解しやすい内容となっていた。電子黒板を利用し、授業を楽しく受ける工夫をする事で、想像力・応用力が伸びるものとなっていた。今後は、刈谷市での、電子黒板の教育事例も、確認にしながら導入について前向きに検討・提案していきたい。

10月25日 神奈川県 綾瀬市立指定管理での図書館運営について

行政比較(関係)

綾瀬市



	綾瀬市	刈谷市
人口	83167人	145970人
面積	20.40km ²	50.45km ²
財政力指数	1.08	1.59
図書館数+図書室数・分室	4館	3館+4室
図書数(蔵書冊数/人)	226475冊(2.7)	822893冊(5.6)
図書職員数[職員数/非正規職員数]	25名/19名	48名/41名
貸出書籍数/市民一人当たり	5.2冊/人	7.8冊/人
図書館利用者数	101358人	254485人

●綾瀬市の、図書館の指定管理制度導入経緯

- 1) 図書館に於ける管理運営の考え方 図書館法に基づき、情報を収集・保存して一般公衆の利用に供し、その教養・調査研究等に資する事を目的としている。この導入で、市民の平等利用・個人情報保護・施設有効利用・経費削減を図り、生涯学習活動の支援に努め、学校等との連携を一層進め、地域の学習ネットワークの充実を図る事。
- 2) 導入のメリット ○住民サービスの向上 ○専門的人材確保と人的資源の整備 ○財政的側面向上
- 3) 導入の基本方針

図書館4館すべての一事業所・一括運営する事で、人材の活用やコスト面で、効果的・効率的な運営が可能となり、民間のノウハウがより発揮され、新しい事業の幅が広がる。4館が別事業所では、本館からの指示命令の設定は困難。指定期間は、十分な成果の期間として、5年間とする。

●綾瀬市立図書館の視察状況

- 1) 市民が直接手に取れる書籍が41%であり、毎年2万冊増加する書籍に対し、別室の部屋に限界に近い保管量であった。
- 2) 書籍には、バーコードラベルのみのものもあり、刈谷市の直営管理の様に、管理ラベルがない状態で、運用している。
(出版社別で保管しており、返却仕分けには経験が必要)
- 3) 直営では司書資格取得職員が不足していたが、指定管理者が、大規模書籍店出ある事から、人材に余力がある。



図書貸し出し受付

●図書館の指定管理制度の効果

- 1) 指定管理後の職員数1名減、経費削減効果1千万円/年
- 2) 会館日数が週1日増加、開館時間も延びている。
- 3) ボランティアによる、読み聞かせなど、図書サービス向上提案もある
- 4) 新刊など一般図書の選書～配架までの日数半減
(配架までの期間2ヶ月→1ヶ月、雑誌の配架 3回/週→発売日当日配架)



地下図書棚

管理ラベルの有無

所感 司書の役割として、希望テーマや調査研究の書籍提案やなど、市民のニーズに合った利用サポートと、読書を促す企画・イベント実施など生涯学習支援につながる活動がある。刈谷市は、司書の取得職員は3名(6%)しかおらず、この面での活動が進みにくい状況と感じる。一方、市職員の司書取得者が少ない事から、職員ローテーションに影響もあると思われる。以上の観点からも、司書資格を多く持つ指定管理者にする事で、サービス向上につながる。又、愛知教育大学の図書館は、22時まで一般開放している実情から、開館時間延長のニーズはあると思われる。経費削減の効果は、綾瀬市の約4倍の書籍数を持つ刈谷市は業務効率効果は更に期待が出来る。将来定住自立権を見据えると、同じ指定管理企業にすれば、更に効果は大きくなると思われる。但し、以下の懸念事項があげられる事から、導入については更に精査・検討する必要があると考える。

◎刈谷市図書館の指定管理制度導入の課題

- 1) 直営からの切り替え時、図書館窓口担当者が変わる事で、利用者との苦情対応が懸念
(指定管理者と図書館ではクレーム内容が異なる)
- 2) 指定管理者の選定時、直営の管理システムの継続の有無により初期投資が大きく変わる為、長期的投資対効果を精査する必要がある。(約80万冊の書籍ラベル張替・書籍管理システム変更等のコスト)
- 3) 窓口業務は、現在の非正規職員が指定管理者への継続雇用が、混乱を最小限に出来ると思えるが、人件費削減によりサービスの低下及び、NPO団体等の連携サービスの拡大が、運営契約の為、鈍化する恐れがある

10月26日 東京都 江戸川区 子ども未来館 … 子どもの探究心を広げる



行政比較(関係)

	江戸川区	刈谷市
人口	678967人	145970人
面積	49.86km ²	50.45km ²
年少人口率	97296人	22552人
高齢人口率	129207人	24406人
区・市内大学数	0	1

●未来館の目的 共育・協働の理念に基づき、子どもが科学や自然等を専門的・継続的、且つ体験的に学べる場を提供し、創造性豊かな子どもの育成に寄与する。

●教室(未来館アカデミー)のコンセプト

- ・子どもたちの探求活動の基地 ・フィールドは区内から各地へ
- ・教材は地域の様々な資源から ・子どもが求めるあらゆる分野を研究
- ・講師は専門家(大学教授等)と地域の人材(サブティーチャー・ボランティア)

様々な知識や技術・考える力を身につける為、低学年向け講演会・講座教室を、高学年に連続講座のクラブやゼミの4種類のプログラムについて、1テーマで半年～1年探求する教室を開いている。

●学び活動の支援体制 専門家26名、地域の人材188名が、定期的に連絡協議会を開催し、情報交換会や研修などを行う。講座内容・材料については、動物園の飼育員やオーロラ研究の大学教授、紙飛行機研究者など支援者の強みを発揮して、側溝のコケ・江戸川の魚など、身近な材料を使い行う。 ※オーロラは、大学研究で海外に設置したカメラを、教室からパソコンで遠隔操作し、生中継ライブで講義する。

●ゼミ講座 ひとつのテーマにそって専門に研究している方達かの講演を聴き、体験しながら知識を広げていく講座

テーマ	講師	対象	内容
宇宙と地球の実験室	大学講師・高校教師	小4～6	地球科学について毎回いろいろな実験で学ぶ
科学反応のふしぎ	地域サブティーチャー	↑	身近なテーマで実験し、器具の扱い方、化学の基礎を学ぶ
社会の仕組みを学ぶ	大学講師ほか	↑	模擬裁判や裁判所見学で法律を知り、自分で考える力を養う

●クラブ講座 いろいろな技術を身につけ、興味関心を深め、より自主的な活動する講座

テーマ	講師	対象	内容
初めてのロボット教室	地域サブティーチャー	小4～6	成魚学習ロボットを組立、パソコンで動かすプログラム基礎を学ぶ
天文部	↑	↑	天体望遠鏡で季節の夜空や太陽を観察(通年12回)
飛行機は何故飛ぶのか	↑	小3～6	はがきで飛行機をつくり原理を学ぶ(修了者STEP UPクラブ有)

その他、ゼミ・クラブ合計で20種類以上の講座がある。又、夏休みでは自由研究の応援プロジェクトを開催
子ども未来館の教室の様子

・1階:篠崎子ども図書館(指定管理)、児童書のみが44千冊(ICチップ内蔵で自動貸出&盗難防止) 図書館のコンテンツ

- ①書物は児童図書のみ。 CD・DVDなどの視聴覚資料
- ②アカデミーと連携し理知活動及び、実験室での活動で、すぐ調べれる図書館。
- ③企画:図書館を使った「調べ学習コンクール」では、発表の場作りも設けている。

・2階:アカデミーの活動について

- ①生物の研究では、近隣の側溝などに生息する生物を採取し、顕微鏡でみる画像により、生物の動きやえさを食べる様子などを観察・研究する。
- ②子ども達だけで、テーマに合わせた作曲を協同で行い、発表会を実施
- ③既製品のロボットを組み立て、その操作をパソコンのソフトで、課題に対するフローチャート・プログラムを学ぶ
- ④子ども達の疑問と希望に対し、地域ボランティアが協力して、竜巻発生装置を製作

・3階:屋上で野菜・果物・穀物など様々な農作物を育てる菜園

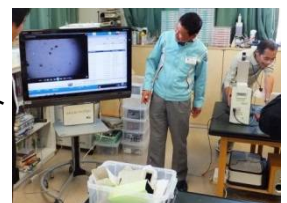
狙いは、普段食べている食べ物を、親子で育て収穫する事で、食べ物の生態を理解する。

所感 子ども未来館は、子ども達の探究心と調べる能力を身に付ける環境作りが整備されている。そして、身近な題材を基に、大学教授や地域ボランティアの協力を得て、学校教育では、出来ない長期間の調査・研究活動を行っている。その活動の幅は広く、子ども達の自主性と低コストに拘ったサポートに徹していた。その為、区としての発表場づくりまでは行っていなかった。こども未来館の様に、こども達が主役で活動できる場作りと、その活動を地域ボランティアの力強い協力を得れる体制づくりは、刈谷市としても参考とすべきと考える。

但し、刈谷市には発明クラブなど様々な団体もある事から、これらを考慮し、行政と共に今後も検討していきたい。



屋上菜園



2階:展示・実験コーナー



1階:篠崎子ども図書館